

い ず み さ の 教 育



問合先
学校教育課

「読書のすすめ」のすすめ

読書は、子どもが言葉を学び、知識を得て、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものです。

今年6月に市内全小・中学校で実施したアンケートによると、平日に読書を全くしないという子どもは小学6年生で29%、中学3年生で49%に上ります。

読書というと、小説やノンフィクションなどを読むというイメージを持つ人も多いのではないのでしょうか。図鑑、好きなスポーツや芸術などに関する本を読むことも読書と言えます。子どもによって興味をもつ本や読む力は様々です。本を読むきっかけ、本と触れ合う機会を作っていくために、まわりの大人が、子どものこれまで読んできた本や好きな本を聞いて好みを把握し、自身がこれまで読んで本の中でよかったものを紹介するのもよいでしょう。

一方で、子どもの選ぶ本を否定せず、自主性も認めていくことも大切です。読む数が増えたら、次第に読む本の幅が広がっていきます。

市内の各小・中学校でも、子どもの読書活動を推進するために、選書や配架、読み聞かせなどの取組、子どもたちの図書委員会での活動など、コロナ禍の中においても様々な工夫をしています。

また、市内の学校図書館には、各中学校に週2回、各小学校に週1回、学校司書が派遣されています。学校図書館や読書の専門家である学校司書から、子どもに合った本を薦めてもらうことも可能です。

今年も、文化の日(11月3日)を中心にした2週間の10月27日～11月9日に読書週間が行われます。
秋の夜長に、大人も子どもも一緒に読書をするのはいかがでしょうか。

学校園紹介



みんなで作る みんなの学校 ～上之郷小学校～

上之郷小学校は、自分たちの学校を自分たちでつくっていきこうという気風にあふれています。

その成果が認められて、昨年度末には、「こころの再生」府民運動で大阪府から表彰を受けました。その活動は今年度「しあわせの木プロジェクト」として引き継がれました。



今年度も感染症対策のため、予定されていたいくつかの行事が中止されています。そんな中、児童会の役員さんたちは、全校のみんなが参加できて、笑顔になれる活動を考え、「しあわせの木プロジェクト」を実現しました。



これは、全校のみんなに葉っぱの形をしたカードを配布し、メッセージを書いてもらい、木を作る活動です。「コロナがおちついたら、いろんなところに行きたい」「修学旅行に行けますように」「医者になって、いろんな命を守る」などすてきなメッセージが寄せられました。

どんな状況の中にあっても、自分たちの学校は自分たちで楽しくするという気持ちが集まる「みんなの学校」、それがわたしたち上之郷小学校です。



地域と共に学ぶ ～大木小学校～

大木小学校では、地域の環境を生かした体験学習を行っています。どの活動も多くの人に協力していただくことで、行うことができています。

【ワラビ採り】大木には、ワラビが自生している場所があり、そこで毎年全校児童でワラビ採りを行っています。子どもたちは、食べられるワラビを見分けながら採り、採ったワラビはあく抜きをして、ワラビご飯などにして食べています。



【川たんけん】大木小学校のすぐ近くを流れている川で年2回、川の生き物を観察する活動を行っています。現在、川たんけんで見つかったシマヨシノボリやドジョウを小学校で飼っています。

【大木たんけん】1～6年生の縦割り班で、大木地区の史跡や自然を見て回る活動を行っています。大木地区は日本遺産にもなっており、その歴史にふれたり、大木の自然を感じながら歩いたりして、大木について学んでいます。

これらの他にも「春みつけ」や「サツマイモ植え」「ジャガイモ掘り」「田植え体験」など、多くの活動を地域のみなさんの協力のもと行っています。

